



友 Yu-Ai 愛

理事長:山根美智子 館長:ロジャー&キャシー・エドマーク

〒733-0032 広島市西区東観音8-10

TEL (082) 503-3191 FAX (082) 503-3179

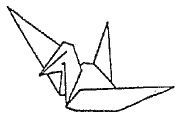
Email: office@wfchiroshima.org Website: www.wfchiroshima.org



Facebook



「渡邊道子さんを偲んで」車地かほり	2
「岡田恵美子さんを偲んで」山根美智子	3
2021年オンライン韓国PAX 茂津目恵	4
被爆者の平和メッセージ (8月6日Zoomイベント) ロン・クライン	6
アメリカPAX (オンライン) ロジャー・エドマーク	7
国際フェスタに参加して 越智聡子	9
キャシーの広島での思い出 キャシー・エドマーク	10
辞任のあいさつ ロジャー・エドマーク	11
理事長としての10年を振り返って 山根美智子	13
副理事長を退任するにあたって 車地かほり	14
新館長自己紹介 マシュー マシュー・ベイトマン	15
新館長自己紹介 マラカイ マラカイ・ネルソン	16
未来委員会活動報告 高橋勝己	16
ふたつのアーカイブズプロジェクト 立花志瑞雄	18
WFCをつ・た・え・る基礎講座の一年 立花志瑞雄	19
ピースセミナー 田口知鶴子	21
平和人形を作る会 車地かほり	21



「渡邊道子さんを偲んで」

車地かほり

2021年の2月11日（推定）。理事の渡邊道子さんが急逝されました。間もなく一周忌を迎えようとしています。彼女がWFCと共に歩んでこられた道を辿りながら、そのお人柄を偲びたいと思います。

渡邊さんは旧満州の生まれで日本に帰られてからは岩国に住み、図書館の司書として長年働かれました。1985年頃、ご主人と広島に移られ府中教会に転会されその後WFCの理事にもなられました。

1990年頃、ご主人の正治氏と共にWFCの理事に就任されました。以来30年という長きにわたりWFCでの活動や旅行など様々な事を共にしてまいりました。理事会やピースセミナーの後、いつも車で送る道中、一緒に乗り合わせた人達とも話に花を咲かせたものです。

道子さんとはピースセミナーでも20年近く一緒にさせていただきました。毎月木原省治氏の講座を聞き、主に核問題について学びました。セミナーの仲間と共にフィールドワークをしたり、何度もレンタカーを借りたりして、中国地方や四国の原発や揚水発電のダムなどを訪ねる旅もしました。



ピースセミナーでの渡邊さん

その他に二人で山陰や沖縄に旅行をしました。沖縄に行ったのは2016年1月で美ら海水族館のある海洋博公園から南端のひめゆりの塔まで巡り、中でも強風と雨の中、傘を吹き飛ばされそうになりながら那覇市の首里城公園を訪れた事は一生忘れられない思い出となりました。言うのは2019年10月31日に発生した火災により首里城の大部分が消失してしまったからです。悪天候の中、ツアーのグループに遅れまいとして一生懸命に歩いていた道子さんの姿が今でも目に浮かびます。

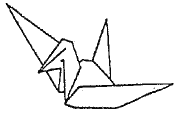


沖縄旅行

渡邊さんは熱心なクリスチャンで府中教会の役員もされており、その関係でWFCの館長が来日する際のビザのお世話を長年して下さいました。付属の幼稚園の理事でもありWFCの館長は毎年、園のクリスマス会でサンタクロースの役を務めるのが慣例になっています。

2006年5月に、ご主人の渡邊正治氏を80歳で亡くされ、その後道子さんは一人暮らしをされていました。なので時々送って帰る途中ショッピングモールの中のレストラン街に立ち寄って夕食を一緒に食べたりしました。東京から出店している店のコロコロステーキが美味しいと評判だったので二人で長い列に並んだことも懐かしい思い出です。

彼女ははっきりとものを言う人でしたがさっぱりとしていて、とても明るい人でした。写真を見るとどれも笑顔です。電話で話したその明るい声も懐かしく思い出されます。



昨年の2月下旬、道子さんに送ったラインに何日も返信がないので、府中教会の三吉牧師に電話をしました。翌日、三吉牧師から道子さんの死を知らせる電話がありました。

数日後の日曜日、教会で道子さんの追悼式があり、理事長の山根美智子さんと出席しました。その時、祭壇に飾られていた満面の笑みを浮かべた渡邊さんの笑顔が脳裏に焼き付いています。

しばらくの間は車を運転する度に助手席に座っていた道子さんを思い出して寂しさが募ると思います。

渡邊道子さん、貴方とめぐりあい長くお付き合いして頂きました。WFCの為に尽力して頂いた事を私たちは決して忘れません。どうぞ安らかに眠りください。



薔薇の名は“Barbara”
初代理事長の原田東岷先生が
お作りになった薔薇です。

田口知鶴子理事がお庭で
大切に育てて下さいました。

写真提供 / 田口知鶴子



「岡田恵美子さんを偲んで」

山根美智子

2021年4月10日のWFC理事会中に、突然倒れられて帰らぬ人となられた岡田恵美子さん。寂しさは、未だに癒えません。

1987年に被爆者をアメリカへ送るWFCの企画を新聞で見られて応募されました。平和使節の一人としてアメリカへ行かれ、WFC創設者のバーバラ・レイノルズとの出会いが、平和活動参加へのきっかけとなったといつも話されていました。

それ以来ですから30年以上のお付き合いになります。公私共に仲良くしていただき、彼女の行動力・明るさ、前向きな考えにはいつも励まされました。

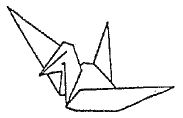
個人的にはWFCの元の館長達を訪ねてアメリカの旅を一緒に楽しんだことも良い思い出です。



ポーランドにて勸善さん（ロン先生の友人）と共に

1999年には、二人の被爆者、岡田さんと空フミコ先生と山下美枝子さんと共にPAX（平和使節交換）としてドイツ・ポーランドを訪れました。岡田さんは被爆証言と彼女の得意な日本文化紹介（茶道と書道）で大活躍されました。

2010年にはミズリー州にある大学に、被爆者の岡田恵美子さん、河野きよみさん、笠岡貞江さん、そして通訳として森河伸子さん、平岡佐知子さんと私が派遣されました。岡田さんがいるだけで周りが明るくなりました。



University of Central Missouriにて

“行動”の人であった岡田さん。その行動力の一例として、2008年に北海道でG8サミットが開かれた際、各国の首脳にヒロシマ訪問を呼び掛ける手紙を送るということがありました。驚いたことに、3カ国（イギリス、ドイツ、アメリカ）がその呼びかけに答え、訪問実現は難しいものの、彼女の勧めに対して感謝の意を表明しました。岡田さんは「一個人が送った手紙に返事を返してくれた上に、返事を書く際に、ほんの少しでもヒロシマについて考える時間を取ってくれたことに感謝したい」と話されていました。

2016年に主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に先立って、広島市で外相会合がありました。その時にも「核兵器が使われたら、きのこ雲の下で人間がどうなるか。外相は平和記念公園を訪れ、形式的に花を手向けるだけでなく、被害の実態に触れてほしい。原爆資料館では、黒焦げの弁当箱や破れた制服などの遺品を見て、もし自分の家族ならばどうかと考えてもらいたい。」と訴える手紙を外相達に送っています。

「アメリカを責めて、罪悪感を持たせるために被爆体験を話すのではなく、二度と同じ悲劇を繰り返さない為に話すのです。可能な限り想像力を働かせながら証言を聞いてもらいたい。核兵器がいかに非人道的な恐ろしい兵器であるかを実感していただきたいのです。」と岡田さんはよく言われていました。

岡田恵美子さんは、永遠に私たちの心に生き続け、道標になってくれることでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。

2021年オンライン韓国PAX

茂津目恵

2021年5月29日（土）韓国PAXが初めてオンラインで開催されました。

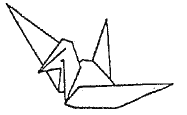
コロナのため韓国との行き来が出来ない状況で、どのように開催するのか？ミーティングを重ね準備をしてまいりました。初めてのオンライン開催でしたので、今回はPAXにこれまで参加下さった方にお声がけをし、同窓会形式いたしました。また、本来広島で開催された時には、被爆体験をお話頂く予定にしていた李鐘根（イ・ジョングン）さん（93歳）と娘さんにもご参加頂きました。ありがとうございました。私を含め新しい参加者もありました。懐かしい再会の挨拶が交わされる様子は、初めて参加する私も思わず笑顔になりました。

オンラインならではの課題にも直面いたしました。通訳（韓国語—英語—日本語）が上手いかず、せっかくの発表が理解できない部分があったり、zoom操作が上手いかなかったり…次回はもう少し配慮し、大切な内容が伝わるようにしたいと思います。

また、今回は同窓会ということで、懐かしい方々と久しぶり再会が果たせて良い機会となったが、韓国PAXを一般の方にも知って頂き、もっとお互いに理解を深めながら勉強することが出来たらと思います。また、そういう場所をWFCは架け橋となり提供していくべきだと思います。



2021年オンライン韓国PAX参加者



【2021年韓国PAXプログラム】

●挨拶 ワールド・フレンドシップ・センター／ピースビルディング・コミュニティー

●セッション1「韓国 PAX のこれまで」

発表者：山根美智子／田口知鶴子／リ・ジェイアン／パク・ヨンソ

●セッション2 ブレイクルーム（小グループに分かれての交流）

●セッション3「報告と質問」

発表者：松本滋恵「韓国 PAX で気づかされたこと」（2019 年参加者）

発表者：茂津目恵「旧陸軍被服支廠について」

発表者：パク・スンシル「韓国人被爆3世について」

●閉会 記念撮影 それぞれメッセージを掲げて撮影しました。

【参加者の感想】

〈韓国の参加者より〉

準備のために、時間を割く必要があり苦労もあったが、WFC側のイニシャティブに感謝している。当日になって参加できない人がいて残念だった。いろいろな人に役割を持ってもらって、必ず参加するような雰囲気を作れたらよかった。旧陸軍被服支廠について知ることができてとてもよかった。韓国PAXを振り返るだけでなく、新しいことを学び、双方の関係性を深める有益な機会ともなった。草の根レベルで、次の世代につながるプログラムだった。

Peacebuilding Community

〈日本の参加者より〉

2003年からの韓国PAXとの思い出がワーと思い出されました。NARPIにも2回参加させて頂き、韓国の皆様には大変お世話になっております。これからもよろしくお願いします。

宮本慶子（2016年参加）

Zoomのお陰で、思いがけず懐かしい方と再会し、途切れかけていた関係を繋ぎ直す事ができました。二国間に横たわる歴史的な問題に正面から向き合い、一緒に暗雲を取り除く努力を重ねる事こそが、将来に向けて真の友情と信頼を深める道であり、韓国PAXの意味はそこにあると思いました。また御手数をお掛け致しますが、よろしくお願い申し上げます。

WFC理事 田口知鶴子（2003・2009・2014参加）

私は2019年に韓国PAXに参加しました。今回の「韓国・広島平和使節交換プログラム2021オンライン同窓会」を通して、オンラインではありましたが、韓国のみなさんと交流を深めることができて、嬉しく思っています。今回のイベントは、韓国PAXの新たな一ページとなったのではないかと思います。

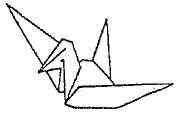
WFC副理事長 立花志瑞雄（2019年参加）

短い時間でしたが、印象に残っているのは、ブレイクアウトルームです。以前韓国PAXで日本に来たメンバーに、実際に来てみてどのように印象が変わったか、などの話を聞けて、とても意義深い時間でした。韓国の被爆2世についての話がとても興味深かったです。

WFCスタッフ 田城美怜

素晴らしいオンラインPAXで感動しました。スムーズな司会に加え皆さんのパワーポイントが素晴らしくてとても楽しかったです。特に茂津目さんのは秀逸で「アッ そうか、通訳でなくサブタイトルをつける方法があるのだ。」という気づきになりました。また英訳も写真もととても素晴らしくて被服支廠の様子が良く伝わって来てはじめて見られた韓国側の方達にもイメージをつかんで頂けたと思います。オンライン同窓会だったんですね、皆さん楽しんでいらしゃった様子がとても良かったです。ブレイクルームのスモールトークはジム先生がトピックを振ってくれて話が弾みました。楽しかったです。

WFC理事 三村 庸子



皆様のご様子を拝見して、とても嬉しく、懐かしく、幸せなひとときでした。WFCの皆さんの顔を見に広島へ行きたいな～っていつも思っているので、そういう意味でも嬉しかったです。どうぞご自愛いただき、この難しい時代をご一緒に生きて参りましょう！

きょうこ

“被爆者の平和メッセージ” (2021年8月6日Zoomイベント)

ロン・クライン | 高橋勝己



「韓国PAXに初めて参加して」
同窓会ということでしたので、初参加の私は英語が話せないこともあり、少し緊張していました。少しだけ習っていた韓国語でコミュニケーションを図ろうと試み、理解できる単語を繋げて何とかしようと……。難しいこともありましたが、ほんの少しでも気持ちが通じた瞬間があり、嬉しかったです。
セッション3では「旧陸軍被服支廠について」発表させて頂きました。英語が話せませんので、パワーポイントは英語字幕を入れて発表しました。これは本当に沢山の皆さんにお力添え頂きました。ありがとうございました。
次回は、もっと沢山の方々を巻き込みながら、韓国と日本について理解を深め合うことが出来たらと思います。

WFC理事 茂津目 恵

去年は世界的なCOVIDのまん延でWFCへのゲストは全くありませんでした。WFCは8月6日の原爆の日初の試みとして、“被爆者の平和メッセージ”と題してZoomイベントを開催し、発信しました。このイベントは一時間半の長さで、四つのパートで構成されました。

最初に館長のロジャーが「WFCのミッションと活動内容」を紹介しました。その後、清水美喜子が「8月6日の背景と原爆投下直後の惨状」について、広島市公文書館長だった小堀吉光さんの言葉を引用して話しました。続いて、館長のキャシーは「被爆者証言の重要性」について説明しました。そして高橋勝己が今回の証言者である畑口實さんのことを紹介しました。畑口さんは胎内被爆者で75歳、以前に広島平和記念資料館の館長を勤められています。

【畑口さんの被爆証言】

畑口さんはスライドを使いながら、家族のお話から証言を始めました。自分の家族は爆心地から20kmの宮島口に住んでいました。お父さんは鉄道局勤務で事務所は広島駅にあり、その場所は爆心地から1.8kmの所でした。原爆投下後4日で鉄道は復旧しましたが、お父さんは家に帰って来ませんでした。お母さんは、広島駅に行き、事務所の辺りを捜して、お父さんの懐中時計とバックルを見つけました。お父さんは亡くなった当時、31歳でした。

会員を募集しています！

World Friendship Center
ワールド・フレンドシップ・センター

WFCへのご支援を
お願いいたします

私たちはWFCの活動は、皆様のご協力によって支えられています。

「被爆証」を拝見し、にほんごで書かれているが、被爆者の声を世界へ届けたアメリカ人女性、バーバラ・レイノルズ。彼女の優しい言葉はいつも、心をなぐさめる。被爆者の声に耳を傾けることは、平和を築く第一歩です。

世界で初めて、被爆者の声を世界へ届けたのは、まさに、バーバラがやった「平和証」がきっかけでした。

世界中からボランティアを募る人々も、被爆者の声を世界へ届ける使命を背負い、そこで出会った人々の支えを受け、平和を築き上げる場所として、1985年創立。ヒロシマの平和を未来に伝えるために活動しています。

また、バーバラ・レイノルズの長女である被爆者でも、母の命を助けたお母さんである被爆者でもある。バーバラの命を助けたお母さん、彼女によって平和な世界が広がりました。

証言から半世紀以上が過ぎても、バーバラの思いのこもった「被爆証」は忘れられません。

バーバラが「証言」を通じて「平和への灯」を掲げたように、私たちも共に歩んでいけるように努力しています。私たちがお互いの力を必要としています。

「あなたも平和のために何かができますか？」

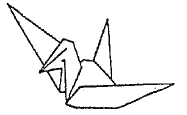
何よりも一度この機会にぜひ皆さんとつながり、歩いていきたいと思います。

ご支援の方法

- 寄付を通して
- 会員になる
- ボランティア活動を通して

詳しくは裏面へ





畑口さんはアメリカのことを憎んで育ちました。21歳になった時に被爆者手帳を交付されましたが、被爆者と見なされることには憤っていました。父親の50回忌の時に父親の懐中時計とバックルを墓に納め、父親の死との折り合いを付けました。その一年後に平和記念資料館の館長になりました。

お話の終わりに、畑口さんは被爆後76年経った後でも感じる身体的、精神的なトラウマについて話しました。結論として畑口さんは、憎しみを乗り越えた心境としての「被爆者の和解のころ」について、仏陀の言葉、“憎しみでもって憎しみを終わらせることはできない。それは、愛（慈悲）によって消え去るもの”を引用されました。

この初めてのZoomイベントでは、アメリカやヨーロッパの国々から70名以上の参加があり、イベント終了後にも多くの方々からチャットコーナーへ質問や感想が寄せられました。

今回のイベントで好意的な意見をいただきましたので、今後、WFCでは学校などに働きかけてオンラインでのヒバクシャ証言を年間を通じて計画する予定です。

今年の8月6日の原爆の日にも“被爆者の平和メッセージ”を届けたいと思っております。

アメリカPAX（オンライン） 2021年10月3日～9日

ロジャー・エドマーク

翻訳 三村庸子

2021年10月にオンラインでアメリカPAXを行いました。7日間に亘って、海を挟んで日米両国の人達が、被爆者の話やプレゼンを聞き、質疑応答をしてお互いに交流しました。

WFCはこのイベントを主催し、ホスト役を果たしました。このWFCの平和交流の歴史は1960年代初頭にさかのぼります。

初日は越智聡子さんによるPAXの歴史のプレゼンから始まりました。これはZoomを使って交流する初めてのPAXでした。4つの大学の学生を含む、200人を超える人たちが参加してくださったことは、大変嬉しいことでした。

準備と調整

PAX委員会は拠点は広島なので、アメリカのコーディネーターたちと協力して働くことは重要なことです。

1週間にわたるPAXのイベントのリーダーシップを取ったのは、委員長の三村庸子・立花志瑞雄・高橋勝己・越智聡子と田城美怜でした。

アメリカのコーディネーターたちも、アメリカPAXを成功させるために、協力してくれました。

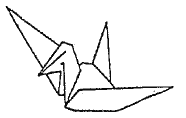
(オハイオ州)ターニャ・マウス、ルイズ・マシュエズ、サンドラ・リクティ
(イリノイ州)バーブ・シェンク&ダニー・オットー

(インディアナ州)ジャニーン・ジョンソン
(オレゴン州)ラリー&ジョアン・シムズ

1週間に及ぶスケジュールを用意し、参加者になるべく多くのイベントに参加してもらえよう、スケジュール調整をすることから始めました。ロジャー&キャシー・エドマークは毎日PAXの司会をし、Zoomのホストはスタッフの田城が担当しました。茂津目恵は毎日のPAXの写真を撮影し、SNSで広報しました。

被爆証言

被爆者の方には時間を割いて証言をしていただき、また私達と意思を共有してくださったことに心から感謝します。



堀江壮さん、西田吾郎さん(通訳 池田美穂)、
梶谷文昭さん(通訳 越智聡子)、笠岡貞江さん
(通訳 平岡佐知子)に証言をしていただきました。

プレゼンテーション

日本からのプレゼンテーション

- *バーバラ & WFC / 高橋勝己(2・4日目),
三村庸子(3・6日目), 清水美喜子(5日目)
- *PAXの歴史 / 越智聡子(1日目)
- *人類相互依存宣言 / 立花志瑞雄(3日目)
- *“差別について” / 修道大学インターン
芥川和花 & 川崎萌華 (7日目)

アメリカからのプレゼンテーション

- *次期館長たちの紹介 / Matthew Bateman and
Malachi Nelson(1日目)
- *“核廃棄とアート” / Tanya Maus(2日目)
- *Hiroshima to Hope / Carol Stern and
Hiroshima to Hope panel: Martha Brice,
Shirley Shimada, Stan Shikuma (4日目)
- *横浜の空爆証言 / Keiko Hara, Lima Sister
Cities Member(5日目)
- *文学と芸術を通しての平和推進 / Louise
Matthews(6日目)

- *“同じ空の下で” / JoAnn Sims(7日目)
- *音楽によるプレゼンテーション / Michael
Stern, Assistance by Carol Stern(7日目)

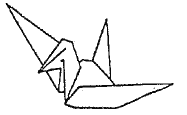
最後に

バーバラ・レイノルズは、1965年にWFCが創設
される前から、被爆者が原爆と放射線にさらさ
れた自分の悲惨な体験を直接語り、証言でき
るよう、共に世界を回りました。

誰かが伝えなければ、核兵器について何も知ら
ない人たちが、毎日この世界に生まれてくるの
です。

私たちは、世界から核兵器がなくなり、人々が
平和に暮らすことを学び、戦争がなくなることを
望んでいます。これらのメッセージを聞く
ことを必要とする次の世代が常に存在します。
今後も各世代と情報を交換し、友情を築かねば
なりません。

2021アメリカPAXに関わってくださった全ての
皆さまに、心より感謝申し上げます。PAXに参
加した人たちにとって、生涯にわたり、未来を
形作るような変化をもたらした1週間であつた
ら、嬉しく思います。



国際フェスタに参加して

越智聡子

2021年11月20日(土)、広島平和文化センター主催の「第22回国際フェスタ」に参加しました。国際フェスタは広島市で国際交流活動が続いている市民団体が中心となって、2000年から毎年開催されているイベントです。

コロナウィルス感染拡大防止のため、「市民活動紹介コーナー」や「国際協力バザー」が中止となり、私が毎年試食を楽しみにしている「世界の屋台」もありませんでした。

今回イベントの多くはオンライン生配信形式により実施され、私たちも国際会議場の会議室に集合して、ドキドキしながら本番を待ちました。



初めに、現在のWFCの活動内容を紹介しました。活動の大きな柱である「被爆証言＝被爆者の声を届けること」「平和公園ガイド」について、その他に英会話クラス、平和使節交換、Hiroshimaをつ・た・え・る基礎講座等様々な活動について説明しました。平和公園ガイドの今後の計画についても話しました。



続いてバーバラ・レイノルズの生涯と彼女が歩んだ人生を、約50枚のスライドを使って紹介しました。広島に来たきっかけや、被爆者との出会い、二度の平和巡礼、WFCの創立について話しました。日本を離れた後もバーバラが献身的に平和活動に取り組んでいたことを学びました。



最後に、館長夫妻がWFCでの日常生活や英会話クラスの様子を話しました。キャシーさんが「皆さんが私たちを王族のようにもてなして下さるので、アメリカに帰った時に一般人に戻れるのか心配です」と話されたのがとても面白かったです。

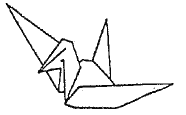
WFCには創立以来、50年以上も継続してアメリカから館長が来日し、前館長であるロジャーとキャシーが第41代にあたります。平和への願いが多くの人に受け継がれていると感じました。

オンライン配信だったため視聴者の反応は分かりませんでしたでしたが、WFCの活動やバーバラについて知っていただくことができたと思います。次回も国際フェスタにも参加して仲間を増やし、友情の輪を広げていきたいです。

「一期一会が平和を築く」バーバラ・レイノルズの意思を引き継いで💖



写真提供 / 茂津目恵



キャシーの広島での思い出

キャシー・エドマーク

翻訳 清水美喜子/田城美怜

私の最初の思い出の一つは、ロジャーと私がWFCに戻るために川沿いを歩いているときに、ロジャーに「私たちが今ここ広島に住んでるなんて信じれる？」と言ったことです。いつか来ようと何年も思い続け、実際に計画し、準備を始めてから2年後、私たちはここにいるのです。なんという喜びでしょう！



私たちは、英語クラスを教えたり、ゲストをもてなしたり、平和活動に参加したりすることは知っていましたが、WFCの館長として自分たちが何をするのかについては、ほとんど詳細も知識もないまま来日しました。私たちは館長としてWFCに行くべきだ感じていたので、細かいことはあまり気にしませんでした。私たちは、神様が人を何かの働きに召命されるとき、その働きのためにその人が必要とするものは、神様が与えてくださると信じているからです。そのため、私はなるべく詳細にわからないことがあることを心配する代わりに、新たな経験に備えて準備しました。前館長のバーブとダニーと過ごした数日間では、必要事項をいくつかしか教えてもらう時間がありませんでした。それからの多くのことを実際に経験し、スタッフや理事による支えやクラスメンバー達の助けにより、まったく問題ではありませんでした。WFCに関わる全ての方が、親切で包容力のある方々です。とても歓迎され、感謝された気持ちになりました。皆さん、ありがとうございます！

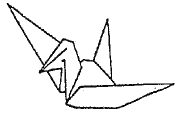
いくつか難しいこともありました。私にとってとても難しかったのは、人の名前を覚えることでした。

2年以上かかりましたが、いまだに名前を間違えてしまうことがあります。でも、皆さんの忍耐と寛容さに感謝しています。また、日本語が流暢でないために、難しいこともあります。特に食料品の買い物は興味深く、Google翻訳には限界があることを知りました。洗剤や詰め替え用の商品も、たまに英単語が含まれていますが、ほぼ日本語で書かれています。でも心配はいりません。必要な商品の空容器の写真を撮って、もし自分で見つけられなければ、大抵の場合、店員さんや他のお客さんが正しい商品を親切に探してくれます。

少なくとも、ひらがなとカタカナくらいは読めるようになりたいと思い、何時間もオンラインで「1時間でひらがなとカタカナ」というプログラムを勉強し、自作のフラッシュカードを使った結果、今ではそのスキルが役に立っています。日本語でコミュニケーションが取れないことで、理解するにも、話をするにも限界が生じることがあります。そのために、これまで参加できなかった平和活動やプログラムもたくさんありました。でも、館長としての主な二つの活動である、英語クラスや世界からのゲストの受け入れなどに日本語を必要としないのはありがたいことです。

私が足首を骨折したことは、予想しない出来事でした。Google翻訳からの少しの助けと、病院での手続きなど治療を受けるための、スタッフの美穂と美怜の多大な助けに感謝しています。また、WFCの友人たちが、必要な物、食べ物のプレゼント、お見舞い、日本の伝統的な贈り物などをくださり、親切にサポートしてくださいました。

ここで過ごした2年以上の時間は、神様からの賜物だと思っています。クラスのメンバーと知り合いになり、クラス内で色々なことをすること中で、強い友情が生まれました。私たちは、皆さん一人ひとりを愛し、大切に思い、一緒に過ごす時間を心から楽しんでいます。皆さんは、それぞれの人生、興味、旅行、読書で学んだこと、素敵な場所の写真やパンフレット、お祝いごと、パフォーマンス、展覧会、そして、そう！広島東洋カープについてなど、多くのことを私たちと共有し、教えてくださいました。皆さんは、特別な食べ物、野菜や果物、そしてお菓子を私たちに分けてくださいました。私の頭も心もお腹も、良い思い出でいっぱいです。



広島は私にとって、いくつかの点で特別な場所です。魚を探したり、潮の満ち引きで変化する川の美しさ。壮大な景色が広がり、たくさんの階段、お寺、神社がある山。そして四季。冬のイルミネーションの色鮮やかさ、万華鏡のようにさまざまな花が咲く春、セミの旋律に合った夏の緑とエアコンの安らぎ、そしてオレンジと赤が鮮やかな秋を通して、生命の循環や、分かち合う豊かな恵みを再確認させられます。



私のための最大の喜びは、広島物語を学ぶことでした。多くの被爆者の話を直接、あるいは書いたもの、録音・録画で聞くことができ、とても感謝しています。彼らの想像を絶する苦しみや失ったものを知り、涙が出ると同時に、核の脅威を二度と繰り返さないために、怒りや復讐心を持たない彼らの姿をみて、私も核の脅威を廃絶するため訴えようと促されます。私は知っています…WFCのある場所、そして私が住んでいる場所は、原爆で破壊されたこと、私が渡る川には死体が流れていたこと、人によっては赤い夕焼けがあの日燃え上がる街を思い出させること、美しい縮景園は焼けただれ亡くなっていった多くの人々の避難場所であったことなどを知っています。

私は生まれながらにしてアメリカ市民ですが、今は地球市民であることを選び、二度と核兵器が誰にも使われることのないようにしたいと思っています。自らの体験を語り、平和のために活動し続ける、WFCを通じて出会った被爆者の方々が、私たちの友達になってくださり、感謝の念に堪えません。

WFCのメンバーや友人は、“一期一会が平和を築く”というWFCのビジョンを生かし続け、広めるために多大な努力をされています。

皆さんは、過去の記憶も生かしながら、未来に花開くために変化する、成長しています。

私たちは日本を離れても、祈りと寄付、そしてオンラインイベントに参加することによって、WFCをサポートし続けます。皆さんがシアトルからスポケーン地域を訪れたときには、心から歓迎したいと思っています。私たちは我が家を非公式ですが“Edmark B&B”と呼んでいます。皆さんに神様の祝福がありますよう。



辞任のあいさつ

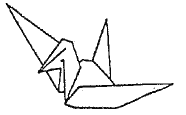
ロジャー・エドマーク

翻訳 清水美喜子/田城美怜

2年以上にも亘る海を超えての引っ越しというのは、私たちの人生では大きな決断でした。このことは、15年間準備してきたことの一つでもありました。家族には既に話をしていたので、私たちがそのことに興味を持っているということは知っていました。しかし、順調に物事を進めていく上で、15年というのは長い期間でした。私たちが行く用意があるかどうかを尋ねられたとき、最初は用意が出来ているかどうかは確かではありませんでした。14年前にゲストとして1日半ほど広島に行ったことがあり、WFCについての情報を読みました。しかし、2年というのは長い期間です。自己分析をしてしばらく後に、準備をしてイエスと答えました！

私たちがWFCに来たのには、いくつかの理由がありました。

- 1) WFC でボランティアとして奉仕すること。
- 2) 日本への深い興味。キャシーは子供の時10年間日本に住んでいたことがあり、私はおよそ30年間余りの間に日本に25回の出張をしていたこと。
- 3) 戦争のない、平和を育成するために志を同じくする願望を分かち合う人たちに巡り合う機会。
- 4) 核兵器の影響をについてもっと学ぶこと。



アメリカで歴史的由緒あるキリスト教平和教会であるブレザレン教会で育った私は、教会の教えの核になる価値観を学びました。WFC は宗教団体ではありませんが、同じような価値観の多くを組み入れていますー非暴力（または、平和主義）、隣人や世界中の友人への愛と思いやり、ボランティアサービス、出会う各々の人に平和の精神を提唱すること。

WFC での奉仕の最初の7カ月の間は、なすべきと期待していたことー平和研修を受けるために広島に来たゲストのもてなしーを確実に成し遂げました。WFC のモットー、“一期一会が平和を築く”がいかに日々実践されているか経験することが出来ました。それからパンデミックが発生し、2年間はほとんどゲストがありませんでした。現にゲストはほぼありませんでしたが、その分私たちは、WFCのスタッフ、ボランティア、英語クラスのメンバー、そして広島で平和活動をする他の人たちを知る時間がもてました。それは、私たちの人生の中で、なんともすばらしい神の恵みとなりました。

ゲストがいなかったので、ゲストがいたならこれほど出来なかったであろう、組織としてのWFCに奉仕しました。広島や世界に対するWFCの独自のビジョンと、目的について考える時間をたくさん持つことができました。WFCが将来に向けてのビジョンを明確にしていく中で、これまで私が培ってきた計画立案と運営技能が役に立ちました。WFCの地元のボランティアの多くは、自分たちは十分な活動をしていないと考えていますが、WFCには非常に熱心で、献身的で、ひたむきに働くボランティアがいます。

また、私たちは、広島の周りの山や丘、川や海を探索する機会も多くもてました。キャシーが足首を骨折した時、足首の治癒と強化のために、たくさん歩くように言われたので、歩き始め、その後歩き続けました。私たちは広島の美しさが大好きです。それらは私たちが広島やWFCにやってきた理由ではありませんが、思いがけない贈り物でした！

WFCの最も良い部分は、私たちが出会った多くの友人です。ほとんど毎月同じ50人の生徒さんやボランティアの人に会うだけではなく、地域で他の友人もできました。すべての人たちは、私たちが約2年でいなくなることを知っているにもかかわらず、私たちを永久の友達であるかのように接してくれました。



私たちにとって彼らは永久の友達です。

どの館長もどのように貢献したいかという、いくつかのアイディアをもってやってきます。私たちにとってのそれは、平和学習にWFCにやってくるゲストへの親切なもてなしでした。私たちは約7カ月間ゲストを迎えることが出来、本当に楽しい時間を過ごしました。しかし、予想外だったのは、広島で2年以上一緒に暮らした人たちのもてなしや友情を、私たちが逆にどれだけ皆さんにいただいたかです。

私たちは、心の傷や喪失の話を聞き、疎外された原爆犠牲者である被爆者に対して心から向き合いました。核兵器を使った戦争は、人類の大半を絶滅させ、生き残った者は一生、放射線病に苦しめられます。その惨状は、広島の想像を絶する悲劇の何倍にも膨れ上がるでしょう。核兵器は廃絶されなければなりません。

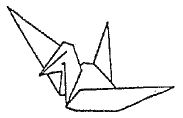
ありがとうございました！

2021年度も、沢山の方がボランティアとしてWFCの様々なお手伝いをしてくださいました。

図書整理、翻訳作業、庭の剪定やお手入れ、部屋の改装作業、資料作成、アーカイブズ、物作りなどなど。

また、コロナ禍でゲストも途絶えている中、国内外から多くの方にご寄付をいただきました。

心より感謝いたします。



全ての経験、出会う人々、考えを広げること、そして新しい挑戦をするたびに、私たちは変化します。過去2年にわたって、戦争、原爆、そして復興を探究する非常に多くの本を読みました。それが私たちの視野を広げてくれました。これらの経験のすべてが私たちを考えさせ、変化させ、その結果、私たちの人生を豊かにしてくれました。

この経験は私たちにとって、大きな祝福でした。知り合った多くの素晴らしい友人たちに会えなくなることを寂しく思います。



写真提供 / 茂津目恵

理事長としての10年を振り返って

山根美智子

私がWFCに関わって40年以上が経ちました。子育てをしながらWFCに通い続け、被爆証言の通訳や平和公園の碑めぐりのボランティア活動を通じて、海外からの素晴らしい人々に会い、世界に視野を広げることができました。

創立以来、約40組の館長達がアメリカから派遣されてきて、私が出会った館長は25組に及びます。前館長のRogerとKathyは41代目です。私が2012年5月の総会で三代目の理事長に任命されましたが、前任の理事長たちが、あまりに偉大な方たちでしたので、大変なプレッシャーを感じました。10年の間に5組の館長と共に協力してきました。どの館長も、平和主義者で強い奉仕の心を持ち、優しく、思いやりがあり、愛情一杯の方たちで、いつも励ましていただきました。身近で働けたのは幸運と言うしかありません。

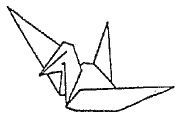
その間には、数々の大きな事業を仲間と一致団結して成し遂げてきました。すべてを挙げるのは難しいのですが、2013年の米国での日系人強制収容所を描いた“Breaking the Silence”（沈黙を破って）、“One World Peace Concert”などを行いました。

2015年4月には、WFC創立50周年という、とても重大な節目を迎え、海外から元館長達や故バーバラ・レイノルズの家族など27名を迎え、縮景園での式典などを含め1週間にわたる記念行事を行いました。この時もマイク・スターンをお呼びしてアステール・プラザでコンサートをしました。IGLの永見理事長にも、バーバラさんとの出会いの話をさせていただきました。最後の締めくくりに、海外からのゲストと共に、神楽門前湯治村へ1泊2日の旅行へ行きました。

2015年9月にはウィルミントン大学、Peace Resource Centerの40周年記念行事に渡辺朝香さん、池田美穂さんと一緒に参加しました。Tanyaをはじめジュシカや元の館長達との再会を喜びました。JoAnnとLarryにミニドカ・キャンプに連れて行っていただいたのは貴重な体験でした。平和使節（PAX）はWFCの大事な活動で、ドイツ、ポーランド、アメリカ、韓国にもPAXで行けたのは幸運でした。

2016年8月にはレイ・マツミヤさん率いる中東の先生方の受け入れもしました。WFCの平和への働きは地道ではありますが、50年以上も続いている団体は他にないと思います。





10年間、理事長をしたので、ちょうど幕引きをするには良い機会だと思い1月の理事会で、理事長は辞任して、理事として残り活動に参加したいと伝えました。相棒の信ちゃんを連れて館長や仲間とおつみ園訪問、被爆証言の通訳、平和公園のガイドなどができるのを心から願っています。



副理事長を退任するにあたって 車地かほり

2014年から務めさせて頂いた副理事長の役を今年度をもって退任する決心をしました。この機会に私とWFCの関わりを振り返ってみたいと思います。

始まりは1977年の夏に翠町のWFCで開かれた集会で初めてバーバラ・レイノルズさんにお会いした事でした。バーバラは1969年に米国に帰国してからも時々広島を訪れておられましたがその集会には原田東岷先生も出席しておられWFCの和室の床の間の前にお二人が並んで座っておられました。

集会が終わった後、バーバラと廊下ですれ違った時、見知らぬ他人の私にニコッと微笑んで下さいました。そのすれ違いざまの優しさにあふれたチャーミングな微笑に、私は一言も言葉を交わすこと無く強く彼女にひきつけられました。

その後、当時の館長だったモーリン・パーカーさんにも出会いました。私はその頃、広島ユネスコ協会青年部に所属していたのですが、ある時ユネスコ青年部が留学生を招いて府中町みくまり峡でピクニックを催しました。

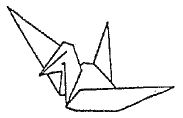
それにモーリンも参加していて私が通訳をしたことから親しくなりました。そして当時の日本人スタッフの女性がアメリカの人と結婚してWFCを去りほとんど日本語が分からないモーリンが一人で困っている事を知りました。私はモーリンの人柄に引かれ意気投合していたので住み込みスタッフになって彼女を助けることにしました。

この様にして1978年3月から1980年3月まで2年間、翠町の古い日本家屋に住んでスタッフとして昼夜を問わず働く生活が始まりました。モーリンとの共同生活は今思い返しても毎日が楽しく充実していました。当時はインターネットもスマホも無く今ほど忙しくない時代でしたし、理事長の原田先生も現役の医師だった事もあり、きちんと毎月の理事会に出席して下さいましたがその他の事は館長とスタッフを信頼して任せて下さっていたように思います。



元館長モーリン・パーカーと車地(1980年頃)

住み込みスタッフの仕事で一番面白かったのは内外からの宿泊客との交流でした。彼らのお世話をしながら交わす会話はとても楽しく刺激に満ちていました。WFCのゲストは昔から世界を広く旅をしていて教養がありかつ平和的な人が多かったです。ですから古い家でろくに鍵をかけていなかったにも拘らず空き巣などの被害は一度もありませんでした。



1980年3月にスタッフを辞めてからは理事になり、ボランティアとしてWFCの活動を継続する事にしました。スタッフから理事、副理事長へそして再び理事へと立場は変わっても私のWFCへの忠誠心は変わりません。これからも自分の意志で自分なりに関わらせて頂きたいと思いますので宜しくお願い致します。



WFC 25周年 ゆかりの地を訪ねて(1990年8月)

新館長自己紹介マシュー

マシュー・ベイトマン

翻訳 高橋勝己

1999年は、僕にとって人生の新たな冒険が始まった忘れられない年です。素晴らしい学習環境を求め、新しい学校の3年生の教室に向かいました。新しいドアの向こうには、ほとんど馴染みのない生徒たち、そして全く知らない先生がおられました。この時の僕は、新しい環境に入ることが苦手で、入り口の敷居を超える勇気が出たのは、唯一の親友が言葉をかけてくれて安心したからでした。私を歓迎してくださった先生は、生徒の話に真摯に耳を傾けてくださる方で、クラスの中で孤立することなく、皆一緒なのだという安心感を与え、周りの人を理解する方法を教えてくださいました。

この先生の名前は、ジョアン・シムズ。彼女は2012~2013年に夫であるラリーと共にWFC館長をされた方です。彼女の導きがあり、私は初めてワールド・フレンドシップ・センターに来ることになりました。2013年のことです。この先生との出会いが、僕の生き方の出発点となります。

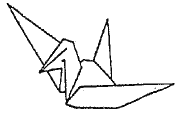
2013年の夏、ジョアン先生の招待で広島に初めて来た僕は、WFCに滞在し被爆者の証言に耳を傾けました。その時、平和公園で開催中であったロータリー国際平和大会に向けても準備をしていました。WFCにおいて有意義な取り組みを提供してくれていることが分かり、僕たちは被爆者証言を聞くために、若いロータリークラブ会員を20人程募り、WFCに行き被爆者の証言を聞くことができました。その年の後半、PAX訪問をコーディネートし、私の大学のキャンパスでプレゼンテーションを行いました。その後、第二次世界大戦中の日系アメリカ人の抑留に関するイベントが続けて行われました。

2021年初めごろ、新館長になることを受け入れた時に、世界がパンデミックで、国境がいつ再び開かれるのか知る由もないまま7カ月も続きました。主として、知識と倫理をいかに共有するかということに関して、技術面での私の仕事を続けました。スキューバダイビング、ボードゲーム、ピククルボール、家族との時間、読書、マラカイと知り合いになること、そして時が経つにつれてどんどん趣味を楽しんでいました。



皆さんは理解してくださるかもしれませんが、私が本当は定年退職後にここでボランティアをしようと思うはずだった瞬間が、パンデミックによりその機会が予定よりも40年も早く訪れ少し戸惑ったことを……。しかし、進むべき道は明らかです。学ぶ者としての思い、そして平和への思い、そして核兵器廃絶へのWFCの活動と共に行動する私のエネルギーは満ちています。

平和のうちに
マシュー (Matthew Bateman)



新館長自己紹介マラカイ

マラカイ・ネルソン

翻訳 高橋勝己

2021年の初め、友人のジョアン・シムズから、「人生経験のためにワールド・フレンドシップ・センターの館長として働いてみたら？」との誘いを受けました。私は、彼女の責任感にあふれ、分け隔てがない信頼のある態度や、社会的に恵まれない人々へ差し出す援助にずっと感心していました。さらに、彼女自身も元館長であり今でもWFC活動の指導的な立場でおられることから、私は真剣にWFCで働くことを考え、翌月には最終的に館長のポジションにつくことにしました。館長として受諾された後、2021年の残りと2022年に入ってから期間は、ヒバクシャについて学び、渡航の準備をし、同僚の館長となるマシューと連絡を取り合いました。



WFCは設立当初から、平和を追求し、そして核兵器廃絶を訴えてきました。この実現のために、私たちはゲストをもてなし、ヒバクシャの証言を紹介し、そしてゲストの皆さんがそれぞれの場で平和が実現できるよう支援しています。個人的によく知っている人を恐れたり、敵に回すことの方が難しいことです。私自身も、旅行、医療関連の仕事、公衆衛生での活動、宗教関連、ボランティア活動を通じて出会った、私とはタイプのちがう人達との交流の中で、このことを個人的に経験してきました。グローバル化や世界の相互依存が進展する一方で、核兵器の拡散は、国民と国の間に未だに根付いている深い不信感を反映しています。

ヒバクシャの証言や地域社会で今語られていることは、私たちの偏見を正し、永続的な平和へと私たちを動かす可能性があります。

マシューと館長として一緒に働くことは名誉なことですし、現在のWFCの活動に参加し、それを広げていくことが楽しみです。私たちの周りには、私たちの活動に対して自信と指針を与えてくれる素晴らしい地域社会があります。ヒバクシャの証言や、WFCが共同して作り出す平和活動の空間は、世界が求めている緊急な要求にユニークな形で応えるものです。日本国の旅行者への入国制限が緩和され、共に“一期一会が平和を築く”ことができる場所で、皆さんを歓迎できますことを楽しみにしております。

未来委員会活動報告

高橋勝己

“未来委員会”（特別委員会）は、2020年10月の理事会で立ち上げが決まり、すぐに委員会活動をスタートさせました。

WFCの将来がこれからどうあるべきか、NPO法人としてどうありたいのかを明確にするため、一年半にわたり22回の委員会を開催し、課題の抽出と解決に取り組んだ経過と活動内容をご報告したいと思います。

1. ことの始まり

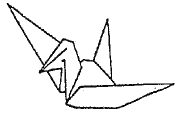
2020年初頭からの新型コロナウイルス（COVID19）の出現により、海外からのゲストが途絶え、WFCに潜在的にあった深刻な課題が露わになった事でした。

ロジャー&キャシー館長とスタッフの田城さんが現状に危機感を覚え、「WFCの将来」についてのアンケートを、全理事に実施するよう四者委員会に提案、実施することになりました。

2. 露わになった課題点

NPO存在の原点とも言える“ミッション”（バーバラの精神）の意識の希薄化・喪失

COVID以前はありがたいことに、外国からの多数のゲストの対応に追われ、先例に従う日常が流れ、“ミッション”を確認したり、行動の中心を自省する時間もありませんでした。



〈結果〉

外部への情報発信の機会も無くなっていき、海外からの“ヒロシマへの入り口”として存在していたWFCの知名度は低下、会員数も低迷、財務基盤の弱体化、活動会員の固定化・高齢化が進む。

実はこの課題点は今に始まったことではありません。機関誌「友愛」創立50周年号に、現名誉理事のステイブン・リーパー氏の指摘があります。「今日、センターは50年間で最も深刻な危機に直面しています」です。被爆者の皆さんをはじめWFC内・外で高齢化が進む中で“このままのWFCではいけない”と言う漠然とした不安が50周年当時に既に存在していました。

- WFCのミッション(バーバラの精神)の再確立
- 外部へのアピール
- 財務基盤の強化

に焦点を絞り具体的な施策を進めてきました。

施策を進める中で更に浮き彫りになったのが、理事会及び理事の意識改革でした。

3. 活動状況と成果について

- WFCのミッション(バーバラの精神)の再確認及び再確立

“WFCのミッション(バーバラの精神)”の議論は広範囲にわたり、この議論を通じて理事の意識も変化を見せました。

〈確認されたこと〉

「WFC第一の“ミッション(バーバラの精神)”は、世界に向けて被爆の実相を発信し、核兵器廃絶を訴えること」

〈結論〉

「被爆者の証言の場」そして「平和公園ガイドの提供」を二つの柱とすること。

〈行動〉「被爆者の証言の場」

- “オンラインでの被爆証言チーム”を結成。
- “Hiroshima Day”(原爆記念日の2021年8月6日にWFCとして初めて被爆者からの平和メッセージ(2021.8.)をオンラインで世界へ配信。

→ “アメリカPAX”(2021.9.3~9)5日間被爆証言を連日英語で世界へ配信。

→ “学校等への被爆証言の場を提供”(島根大学・横浜市立小田中学校)

〈行動〉「平和公園ガイドの提供」

→ 平和公園等のガイド内容の充実と若手ガイドを育成するための新たな体制作り。

● 外部へのアピール

〈確認されたこと〉

ワールド・フレンドシップ・センターとはどんな場所なのか?バーバラ・レイノルズとはどんな人だったのか?どんな歴史があるのか?WFCそのものについてまず知ってもらうために、しっかりと自分たちのやるべきことをしながら、それを発信していく。

〈行動〉

小冊子「バーバラ・レイノルズとワールド・フレンドシップ・センター」の作成・出版。

バーバラ・レイノルズの生涯とWFCについての紹介する冊子の作成・配布。広く知って頂く。

(A5版、8頁、日英/2021年秋/ホームページでも閲覧可)→中国新聞(2022.1.12.)に取り上げて頂きました。

〈行動〉

毎年行うイベントの提案と実施。

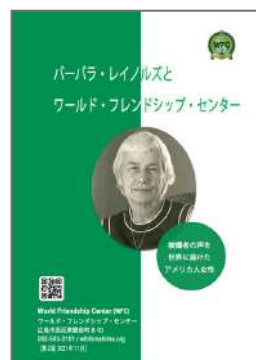
→ バーバラ・ディ(仮称)

→ Hiroshima Day(2021年実施)

→ 国際フェスタ参加(2021年参加)

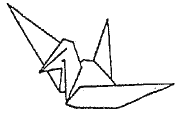
〈行動〉

プレゼンテーション資料(パワーポイント、日英)の作成。



こちらのQRコードから冊子をご覧いただけます





〈行動〉 広報活動他

- WFC「ニューズレター」の発行
- SNSを活用したPR活動
- “ヒロシマピースグラント”（公益財団法人ヒロシマ創造基金）への応募を試みましたが、残念ながら実現できませんでした。

● 財務基盤の強化・会員の増強

〈確認されたこと〉

WFCは長年どの時代においても、財務基盤の弱体が常にネックとなってきました。機関誌「友愛」にもその時代その時代で必ずその問題が提起されています。またそれに対する対応策も試みられたこともありますが、現在も尚、財務の強化には至っておりません。

歴史があり、信頼を頂き、魅力あるNPO団体として、しっかりと行動しWFCのファンになって頂くことが、会員増強に繋がり、引いては財務基盤の強化へと自ずと繋がっていく。

〈行動〉

- 新たに「賛助会員」が定款に追加承認（総会2021.5.）
- 「会員募集チラシ」や小冊子「バーバラ・レイルズとワルト・フレッドシップ・センター」の作成会員増強に向けての環境を整える。
- ロジャー館長のプレゼンテーション「願望、夢、ビジョン」を受け理事自らの意識改革を図る。
- 寄付者にメリットの多い一段上のNPO法人（認定NPO）昇格を目指すことを決定する（2021年6月理事会）

〈総括〉

まだまだ意識改革も道半ばではありますが、未来委員会で確立してきたものを足掛かりに、信頼されるNPO団体として、理事自らが率先して行動し、被爆77年目を迎える広島市の平和団体として、バトンを未来へ送るために行動してまいります。

最後に、常に労力を惜しまず共に行動してくれた未来委員会の皆さん、越智聡子、清水美喜子、田城美怜、茂津目恵、山根美智子さんに、絶大な感謝の言葉をお贈りします。ありがとうございました。

ふたつのアーカイブズプロジェクト

立花志瑞雄

現在、WFCではふたつのアーカイブズプロジェクトが進行しています。アーカイブズの作業というのは、資料を保存していくことですが、私たちは保存していく資料が、将来の世代に有効に活用されること、国内のみならず、国際的にも活用されていくことを目指して、ウィルミントン大学平和資料センターの館長、ターニャ・マウスさんやアーキビストの筒井弥生さんのご協力を頂きながら、アーカイブズの構築作業を行っています。

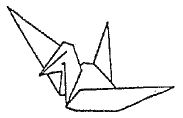
一つ目のプロジェクトは、“WFCの資料”に関するものです。創立以前の平和巡礼の資料をはじめとして、半世紀を超える越える様々資料があり、それらの資料を整理、目録化しているところです。

もう一つのプロジェクトは、“Morishita Papers”と私たちが呼んでいるWFC名誉理事長森下弘先生の所蔵資料に関するものです。WFCの資料は段ボール約20箱分くらいですが、森下先生の資料は膨大です。WFCの資料の10倍くらいはあるかもしれません。先生の活動の広さは、所蔵されている多岐にわたる資料にあらわれています（原爆関係、平和教育、海外への平和行脚、書道関係他）。膨大な量の箱を開けて、その中にどのような資料が保管されているか書き出していく作業や先生の所蔵されている多数の書籍をリスト化していく作業を行っています。先生はこれらの資料を将来の世代に有効に活用してくれる機関等に寄贈したいと願っておられます。

ここで、アーカイブズの作業に参加して下さっている二人のボランティアの方の感想を紹介したいと思います。

【Morishita Papersの作業に参加くださっている、安武敦子さんより】

「森下先生の資料整理をするようになって6ヶ月ほどになります。毎回、先生の資料の種類と量の多さに圧倒されています。どんな資料が入っているのか、いつもワクワクします。



詩人の栗原貞子さんの自筆のハガキや、供養塔の守り人だった佐伯敏子さんの自作資料を見つけた時は、思わず作業の手が止まりました。どの資料も誰かにとっての宝物なんだろうなあ、と思いながらメモを取っています。皆さんも、ぜひこの作業に参加して、自分にとってのお宝を見つけてみませんか？」

【WFCアーカイブズ・Morishita Papersの作業に参加くださっている、理事の三村庸子さん】

「アーカイブズの読み取り作業をしていて、思いもかけない発見があります。1965年の創立以来、国内外から、ヒロシマを学ぶためには、まず広島をWFCを訪ねて、という時代でもありました。アメリカからのゲストが栗原貞子さんとの面会を希望したときには、理事が栗原さんと一緒に案内をしたりホスピタリティを発揮しています。手紙や当時の新聞の切り抜きなどが有り、“WFCが南観音から移転先を探している”と中国新聞で記事になっているのを見つたり、1945年12月8日当日のパールハーバーの新聞を見つけたときには驚きましたが、これは1980年代発行のコピー新聞でした。判読が難しい筆記体の手紙は館長のKathyに手伝って貰って、楽しみながら進めています。」

最後になりましたが、この作業に関わってくださっているボランティアの方々に感謝の気持ちをお伝えするとともに、読者のみなさんに、このプロジェクトへの参加をお誘いして、終わりたいと思います。



第二回世界平和巡礼パンフレット

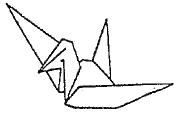
WFC Hiroshimaをつ・た・え・る 基礎講座の一年

立花志瑞雄

2年前、新型コロナウイルスが世界中に広がり、2017年以来、ほぼ月1回、WFCの和室に集まり、時には屋外でのフィールドワークを通じ、受講者の方たちと学びを続けていきましたが、それが一変してしまいました。数か月は何もできない状態が続きましたが、コロナ禍にあって、オンラインの講座を行うという、新たな一歩を踏み出しました。以来、何度も感染の波に遭遇しましたが、オンラインの講座と対面でのフィールドワークを続けることができました。



オンラインの講座を始めることによって、広島市、県外の方たちの参加が可能になり、時にはアメリカやフランスからの参加もありました。さらにSNSを通じての発信、口コミによって、受講者数が増えていきました。コロナ禍前は、会場のスペースの関係上、受講人数は限られ、講座をスタートしてからの受講者の延べ人数も数十人程度でした。しかし、現在、2017年度からの受講者の延べ人数は、130人を越えました。講座の録画にも取り組み、後日視聴もできるようになり被爆について、平和について、学びたい方々のお役に立てるような基礎講座に成長してきているのではないかと感じています。フィールドワークは、視聴用として、講師の方にお問い合わせの際、撮影させていただいています。当日の資料として、繰返し見返すことができ、とても参考になっているとの嬉しいご意見もいただきます。



今年度は以下のような講座を企画しました。

4月24日 比治山付近を巡り 軍都広島・被爆地ヒロシマの姿を学ぶ フィールドワーク

講師：多賀俊介さん

5月22日 原民喜の「夏の花」を歩く オンラインフィールドワーク

講師：竹原陽子さん

6月26日 「旧陸軍被服支廠について」

講師：遊馬しいしさん、崇徳高校新聞部の皆さん

7月24日 「頑張ってるぞ、ヒロシマの平和教育」

講師：松井久治さん

8月28日 「李鐘根（イ・ジョングン）さんによる被爆証言」

講師：李鐘根さん

9月25日 ヒロシマを深める 記者として、教員として

講師：徳永博充さん

10月23日 フィールドワーク 「被爆樹木に会いに行く」

講師：渡部久仁子さん

11月27日 フィールドワーク 「似島、もう一つのヒロシマ」

講師：中澤晶子さん

12月11日 「森下先生とともに世界平和巡礼から学ぶーアメリカ編ー」

講師：森下弘さん

1月22日 「広島戦後復興と新たなアイデンティティの構築」

講師：弓狩匡純さん

2月26日 「被爆証言を聞くー笠岡貞江さんー」

講師：笠岡貞江さん

3月26日 「森下先生とともに世界平和巡礼から学ぶーヨーロッパ・ソ連編ー」

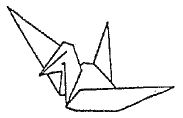
講師：森下弘さん

講師の方々には、事前ミーティングや下見など、講座当日だけではなくご協力をいただき感謝申し上げます。また参加してくださっている受講者の皆さんにも感謝いたします。

被爆者の方たちの願いである“核兵器廃絶”、そして“平和への思い”を引き継ぐために、これからも学びの場を企画していきたいと思っております。



過去の講座の視聴はWFCウェブサイト
つたえる講座のページからお申し込みいただけます。



ピースセミナー

田口知鶴子

ピースセミナーは8月と12月を除いた毎月、対面での話し合いをモットーとしています。昨年度は新型コロナ感染対策のため、4回、セミナーが開かれました。

会員がこの3年間で8人から12人に増え、賑やかな談義が交わされておりましたが、長年リーダーとして会を支えて来られた理事の渡邊道子さんが昨年春、突然逝去されたことは、本当に残念でなりません。改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。

○セミナーのテーマ

- ・ 島根原発2号機、今後の展開はどうなる？
 - ・ 映画 “華氏9.11” を観て、あれから20年を考える
 - ・ 2021年の出来事と今後を考える
 - ・ ロシアのウクライナ侵攻をどう視る
- の4つが、広い意味の平和に関するテーマに取り上げられた。

○セミナーで取り上げられた問題点

世界目標である“炭素削減”の流れに沿って原発再稼働問題が再燃し、国・自治体と電力会社が安全協定に合意して先急ぎする危険性や、汚染水の海洋放出の問題。

アメリカ軍が撤退したアフガニスタンでタリバン暫定政権が樹立し、再びテロの温床に逆行する可能性がある事や、国民が日々窮乏状態にある事、米国の同盟国である日本も、軍事予算を大国化する懸念が出ている事。

ロシアは、ウクライナ東部の親ロシア派の地域を守るという命題のもと、ウクライナ侵攻による民間殺戮を強行し、核施設を攻撃し駆け引きとして核兵器を使おうとしている事。ロシアのこうした徹底攻勢は、ソ連崩壊によるウクライナ独立の歴史に大きな要因がある事。

様々な問題が、一国に留まらず諸国に連動し世界を揺るがす事態に進展していて、話し合いによる世界の結束した行動が何より必要である。

平和人形を作る会

車地かほり

バーバラ・レイノルズさんの依頼により、竹内千代さんによって創作された“平和人形”を復活させようと、数年前に「平和人形を作る会」を立ち上げました。

昨年は人形作りを指導して下さっている田中ゆき子さんが左肩の手術をされ会は休止状態でした。しかしリハビリ中のゆき子さんが会の再開を熱心に支持して下さい5月24日(火)にWFCのリビングで久し振りに会を持つことが出来ました。

日本政府も徐々に外国人観光客の入国を許可する方針のようです。WFCにお越しいただいた方には、記念に平和人形をプレゼントしたいと思っています。その為にもこれから毎月会を開いてせっせと人形を作りためていく予定です。以上簡単ですが、現状報告とさせていただきます。



毎月の行事と日時につきましては、毎月発行されるWFC行事カレンダーをご確認ください。
WFC行事カレンダーのメール受け取りをご希望される方は、WFC事務所にメールでお問い合わせください。

office@wfchiroshima.org